



## 多摩産材の活用

令和4年(2022年)5月18日、26日、6月1日には、立川市クリーンセンターたちむにいが親しみを感じられる施設となることを目指し、周辺の大山小学校、第九小学校に通う全児童を対象に、管理棟1階エントランスの壁面に設置する多摩産木材の塗装体験を実施いたしました。

この塗装体験は、立川市民科の授業を活用しており、塗装体験の前には、施設におけるごみ処理の流れ等についての授業を行うことで、本事業に対する知識を深めていただきました。

立川市クリーンセンターたちむにいが、親しみをもたれる施設になることを目指して、管理棟1階ロビーにこの作品を展示しています。

## 愛称とロゴについて

「愛称」については、公募方式により命名しました。その後、学識経験者や建設地周辺地域の代表者などで構成する選考委員会による審査を踏まえて決定し、令和4年(2022年)4月に、愛称を「たちむにい」と公表しました。

立川と煙突(英語でチムニー)をかけて表現された「たちむにい」という愛称には、緑豊かな森から空に向かって伸びるクリーンセンターの煙突がネガティブなものではなく、立川のあらたなランドマークになってほしいという思いが込められています。

愛称ロゴは、立川市と明星大学デザイン学部との協働事業「立川活性化プロジェクト2022」により作成されました。

立川市クリーンセンター  
**たちむにい**  
Tachikawa City Clean Center TACHIMNey



煙突の3本線を表現



親しみある笑顔



## 立川市クリーンセンター

〒190-0015 東京都立川市泉町2,002番地  
TEL.042-519-5319

- 一般見学 休館日を除く 午前9時～午後5時 ※予約不要
- 団体見学 月曜日～金曜日(休館日・祝日を除く) 午前9時～午後5時 ※事前予約制
- 休館日 毎月第1月曜日(祝日と重なるときは翌平日)  
年末・年始
- アクセス JR東中神駅より徒歩約15分  
大山団地折返場バス停より徒歩約7分  
西武蔵野バス停より徒歩約8分
- 事業主体  立川市
- 設計・施工管理 パニフィックコンサルタンツ株式会社
- 設計・施工 荏原・吉川特定建設工事共同企業体
- 運営 株式会社たちかわEサービス



立川市



## たちむにい宣言 （立川市クリーンセンター運営基本方針）

立川市クリーンセンターの運営にあたっては、施設周辺住民はもとより市民と市が相互に理解を深め、信頼関係を醸成し、期待に応える運営を行うことが重要です。また、市の責務として、法令等を遵守することはもとより、積極的に環境を保全するために、法令規制値等に付加し、排ガスに関する厳しい自主規制値を設定し、開かれた施設運営を行うため、積極的に情報公開を行います。

立川市クリーンセンターは、市民をはじめとした多くの人が、ごみ処理について理解を深めるきっかけとなるように、施設に気軽に立ち寄り見学ができる運営や環境学習等を通して、地域とのコミュニケーションを促進します。

市は、施設の運営開始にあたり、市が取り組む基本的な内容を「立川市クリーンセンター運営基本方針」として令和 4 年（2022年）6 月に公表しています。

### 立川市クリーンセンターにおける 排ガスの自主規制値

|              | 単位         | 自主<br>規制値 | 〈参考〉<br>法令規制値等 |
|--------------|------------|-----------|----------------|
| ば い じ ん      | g/m³N      | 0.005 以下  | 0.08 以下        |
| 塩 化 水 素（HCl） | ppm        | 10 以下     | 約430 以下        |
| 硫黄酸化物（SOx）   | ppm        | 10 以下     | 約890 以下        |
| 窒素酸化物（NOx）   | ppm        | 40 以下     | 250 以下         |
| ダイオキシン類      | ng-TEQ/m³N | 0.01 以下   | 1.0 以下         |
| 水 銀          | mg/m³N     | 0.03 以下   | 0.03 以下        |

※各値、酸素濃度12%換算値とする

## 施設が目指す 5 つの目標

01 地球環境や地域環境、施設周辺の生活環境を保全するため、環境への影響物質の排出を可能な限り低減を図る施設を目指します。

02 万全の事故対策を実施することにより、将来にわたって安全で安定したごみ処理が行える施設を目指します。

03 ごみを処理する段階で得られる熱エネルギーなどを効率的に回収し、有効活用できる施設を目指します。

04 耐震性や浸水等の対策を行うことにより、大規模災害時にも稼働を確保し、地域の「防災拠点」としてエネルギー供給等が行える施設を目指します。

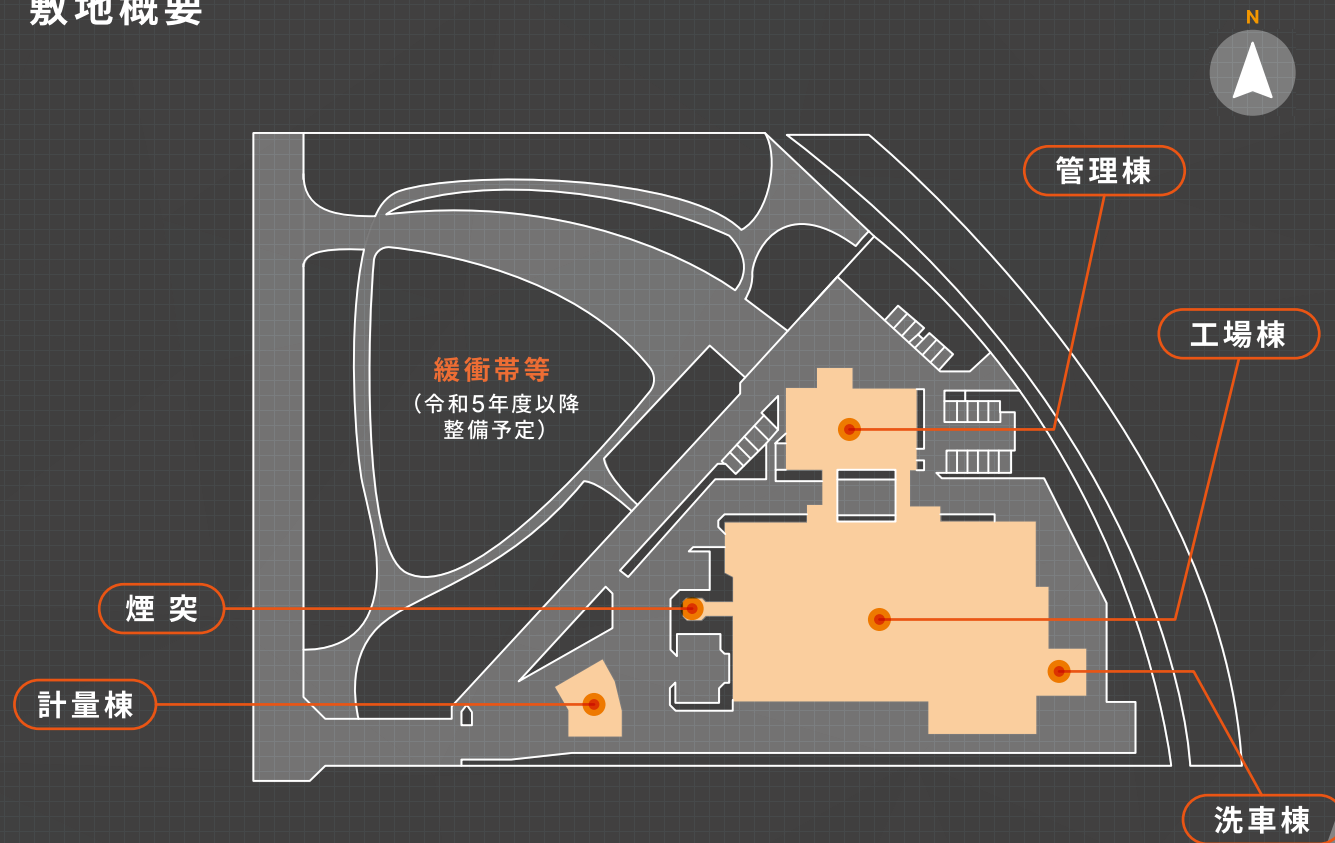
05 ごみの処理（焼却）だけでなく、環境学習が行える機能を備え、地域への調和と景観に配慮した、市民から親しみをもたれる施設を目指します。

### 施設概要

|           |                       |               |                                             |
|-----------|-----------------------|---------------|---------------------------------------------|
| 施 設 名 称   | 立川市クリーンセンター           | 受 入 ・ 供 給 設 備 | ビットアンドクレーン方式                                |
| 所 在 地     | 東京都立川市泉町2,002番地       | 燃 焼 設 備       | ストーカ方式                                      |
| 敷 地 面 積   | 24,354㎡               | 燃焼ガス冷却設備      | 廃熱ボイラー方式                                    |
| 建 築 面 積   | 4,412.36㎡             | 排ガス処理設備       | ろ過式集じん器、HCl・SOx除去装置、触媒脱硝装置、ダイオキシン類除去装置（活性炭） |
| 延 床 面 積   | 7,952.66㎡             | 通 風 設 備       | 平衡通風方式                                      |
| 煙 突 高 さ   | 59m                   | 余 熱 利 用 設 備   | 蒸気タービン発電機（最大出力 2,390kW）<br>温水供給設備           |
| 処 理 対 象 物 | 燃やせるごみ・可燃性粗大ごみ・可燃残さ   |               | 未処理飛灰：サイロ方式                                 |
| 処 理 能 力   | 120t/日（60t/24時間×2炉）   | 飛 灰 処 理 設 備   | 処 理 飛 灰：ビットアンドクレーン方式                        |
| 事 業 方 式   | DBO（公設民営）方式           |               | 飛 灰 処 理：薬剤処理方式                              |
| 整 備 期 間   | 2019年6月27日～2023年2月28日 |               |                                             |
| 運 営 期 間   | 2023年3月 1日～2043年3月31日 |               |                                             |



## 敷地概要



## 施設概要

施設は主に「ごみの受け入れ」「焼却のための一時貯留」「焼却」「業務を管理するための諸室」で構成されている「**工場管理エリア**」と、環境学習のために見学者がごみ処理の流れを学ぶ「**見学者管理エリア**」に分けられ、見学者ルートは利用時間内であれば基本的に自由に施設見学できます。工場管理エリアは施設の安全や情報管理等の必要性から一般見学者は立ち入ることができません。

このようにセキュリティエリアを明確にすることにより、見学者の安全や施設運転上の安全の確保に配慮した計画としています。

見学者は矢印で図示したルートを通り、ごみ処理の流れを学習していきます。ごみの受け入れをする「プラットフォーム」、ごみを貯留し攪拌する「ごみピット・ごみクレーン」、施設の運転を管理する「中央制御室」、ごみを焼却する「焼却炉」、余熱により作った蒸気を使用して発電を行う「蒸気タービン発電機」と、順を追って見学することができます。

### 見学者管理エリア



### 工場管理エリア



## ごみ処理の流れ

燃やせるごみは、計量機で重さを計った後、プラットホームに入り、ごみピット(5,000m<sup>3</sup>)に貯められます。ごみピットのごみはごみクレーンで焼却炉(60t/日×2炉)に送られ、焼却します。焼却炉から出た高温の排ガスはボイラーへ送られます。ボイラーの中には水が入っている配管(水管)が張り巡らされており、排ガスの熱を利用して蒸気をつくります。ボイラーで熱エネルギーを回収した排ガスは減温塔で排ガス処理に適した温度に調整します。ろ過式集じん器、触媒脱硝装置で有害物質を除去し、排ガスの自主規制値以下で、煙突より排出します。

### 焼却炉

様々なごみ質に対応してそれぞれのごみ送り速度と燃焼用空気の吹込み量を調節することで、900℃以上の高温で焼却を行い、ダイオキシン類を分解します。



### ボイラー

焼却炉より送られてきた排ガスの熱を利用して蒸気をつくります。この蒸気により、電気やお湯が作られます。



### 蒸気タービン発電機

ボイラーでつくった蒸気を利用して、蒸気タービンを回し、最大2,390kWの電力を発生させます。つくられた電気は施設内の電力を賄うとともに余剰電力は売電します。



### 蒸気復水器

蒸気タービンの排気を冷却、凝縮させ、再びボイラー用水として再利用します。



### ろ過式集じん器

ろ過式集じん器内部に設置されたろ布(フィルター)が排ガスの中に含まれる有害物質を取り除き、クリーンな状態にします。



### 触媒脱硝装置

排ガス中に微量に残っているダイオキシン類や窒素酸化物を触媒の働きにより分解します。



### 中央制御室

プラント全体の運転状況を監視・制御します。各設備はコンピュータにより自動運転されています。



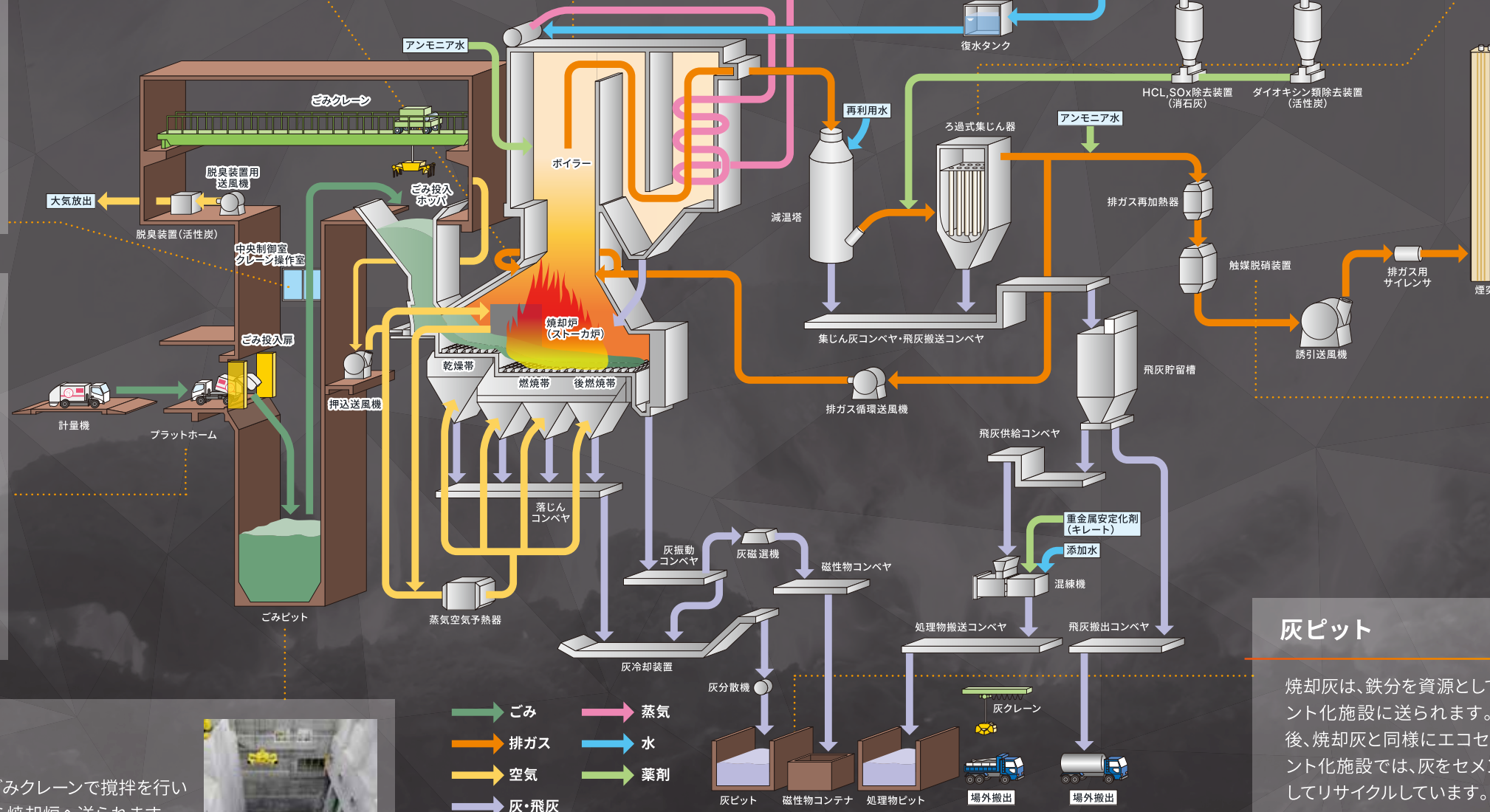
### プラットホーム

ごみ収集車は計量機で重さをはかってからプラットホームに入り、ごみピットにごみを投入します。



### ごみピット

ごみは一旦ごみピットに貯留し、ごみクレーンで攪拌を行い均質化した後、ごみ投入ホッパから焼却炉へ送られます。



### 灰ピット

焼却灰は、鉄分を資源として回収した後、水冷し、外部のエコセメント化施設に送られます。飛灰についても、飛灰貯留槽で貯留後、焼却灰と同様にエコセメント化施設に送られます。エコセメント化施設では、灰をセメント原料として調合し、エコセメントとしてリサイクルしています。